



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔IFRS〕(連結)

平成28年10月28日

上場会社名 アステラス製薬株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4503 URL http://www.astellas.com/jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 畑中 好彦
 問合せ先責任者(役職名) 広報部長 (氏名) 臼井 政明 (TEL) 03(3244)3201
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月2日 配当支払開始予定日 平成28年12月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 有
 四半期決算説明会開催の有無: 有 (証券アナリスト・機関投資家・報道機関向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日~平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前 四半期利益		四半期純利益		親会社の所有者に 帰属する四半期純利益		四半期包括 利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	651,673	5.2	157,057	18.4	157,772	8.5	115,064	11.8	115,064	11.8	2,662	97.5
28年3月期第2四半期	687,501	15.7	132,637	28.5	145,418	41.6	102,933	47.1	102,933	47.1	104,868	19.5

	基本的1株当たり 四半期純利益	希薄化後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	54.16	54.08
28年3月期第2四半期	47.30	47.23

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	1,713,181	1,227,253	1,227,253	71.6
28年3月期	1,799,338	1,259,209	1,259,209	70.0

2. 配当の状況

	年 間 配 当 金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	-	16.00	-	16.00	32.00
29年3月期	-	17.00	-	-	-
29年3月期(予想)	-	-	-	17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日~平成29年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		税引前利益		当期純利益		親会社の所有者に 帰属する当期純利益		基本的1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	1,300,000	5.3	267,000	7.2	268,000	2.4	198,000	2.2	198,000	2.2	93.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

コアベースでの連結業績予想は次のとおりです。

(%表示は対前期増減率)

	売 上 高		コ ア 営 業 利 益		コ ア 当 期 純 利 益		基 本 的 1 株 当 たり コ ア 当 期 純 利 益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	1,300,000	5.3	274,000	2.4	202,000	1.6	95.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

当社は、会社の経常的な収益性を示す指標としてコアベースの業績を開示しています。コアベースの業績の定義につきましては、添付資料P.2に記載しています。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

IFRSにより要求される会計方針の変更：無
以外の会計方針の変更：無
会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

期末発行済株式数（自己株式を含む）

期末自己株式数

期中平均株式数（四半期累計）

29年3月期第2四半期	2,153,823,175株	28年3月期	2,221,823,175株
29年3月期第2四半期	29,169,748株	28年3月期	96,844,512株
29年3月期第2四半期	2,124,684,626株	28年3月期第2四半期	2,176,108,988株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記の予想及び添付資料に含まれる将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P.11をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法)

四半期決算短信の開示とあわせて四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会資料を開示しています。

また、平成28年10月28日（金）に証券アナリスト・機関投資家・報道機関向けに決算説明会を開催する予定です。この決算説明会の音声については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	9
(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明	11
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	13
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更	13
3. 要約四半期連結財務諸表	14
(1) 要約四半期連結純損益計算書	14
(2) 要約四半期連結包括利益計算書	15
(3) 要約四半期連結財政状態計算書	16
(4) 要約四半期連結持分変動計算書	18
(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	20
(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	21
(継続企業の前提に関する注記)	21
(企業結合)	21

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 当期の概況

<連結業績(コアベース^{注)}>

当第2四半期累計期間(2016年4月1日から9月30日)の連結業績(コアベース)は、以下の通り、売上高は減収、コア営業利益、コア四半期純利益は増益となりました。

[連結業績(コアベース)]

(単位:百万円)

	前第2四半期累計 (2016年3月期)	当第2四半期累計 (2017年3月期)	対前年同期増減額 (増減率)
売上高	687,501	651,673	△35,828 (△5.2%)
コア営業利益	145,170	166,455	21,285 (14.7%)
コア四半期純利益	103,938	120,569	16,631 (16.0%)
基本的1株当たり コア四半期純利益(円)	47.76	56.75	8.99 (18.8%)

<研究開発費>

(単位:百万円)

	前第2四半期累計	当第2四半期累計	増減
研究開発費	112,041	99,671	△12,371

(注) 当社は、会社の経常的な収益性を示す指標としてコアベースの業績を開示しています。当該コアベースの業績は、フルベースの業績から当社が定める非経常的な項目を調整項目として除外したものです。調整項目には、減損損失、有形固定資産売却損益、リストラクチャリング費用、災害による損失、訴訟等による多額の賠償又は和解費用等のほか、会社が除外すべきと判断する項目が含まれます。なお、フルベースの実績からコアベースの実績への調整表は、決算補足資料の3ページに記載しています。

【為替の業績への影響】

当第2四半期累計期間の為替レートは、下表の通りです。これらの結果、前第2四半期累計期間の為替レートを適用した場合と比べ、売上高においては641億円の減収、コア営業利益においては125億円の減益の影響がありました。

期中平均レート	前第2四半期累計	当第2四半期累計	変動
米ドル/円	122	105	17円高
ユーロ/円	135	118	17円高

期首・期末の変動	前第2四半期累計	当第2四半期累計
米ドル/円	0円高	12円高
ユーロ/円	5円安	14円高

【売上高】

連結売上高は6,517億円（前年同期比5.2%減）となりました。

- ・ 為替の影響に加え、本年4月に日本で実施された薬価改定の影響等もあり、減収となりました。
- ・ グローバル製品については、前立腺がん治療剤XTANDI/イクスタンジの売上が拡大しました。ベシケアとベタニス/ミラベトリック/ベットミガを合わせた過活動膀胱(OAB)治療剤の売上は為替の影響により減少しました。また、免疫抑制剤プログラフの売上が減少しました。

（地域別売上高の状況）

※地域別売上高については売上元会社の所在地に基づき集計しています。

◇ 日本

日本の売上高は2,372億円（同4.0%減）となりました。このうち、日本市場での売上高は薬価改定の影響等もあり、2,218億円（同7.6%減）となりました。

- ・ ベシケアとベタニスを合わせたOAB治療剤、消炎鎮痛剤セレコックス、成人気管支喘息治療剤シムビコート、2型糖尿病治療剤スーグラ等の売上が拡大しました。
- ・ イクスタンジの売上が薬価改定の影響を受け減少しました。
- ・ また、ワクチンの売上が昨年度実施された製造元の出荷自粛の影響が続いたこと等により減少したほか、高コレステロール血症治療剤リピトールや消化性潰瘍・胃炎治療剤ガスター等の売上が、後発医薬品の影響等により減少しました。

◇ 米州

米州の売上高は2,066億円(同11.3%減)となりました。なお、米ドルベースでの売上高は1,963百万ドル(同2.6%増)となりました。

- ・ XTANDI、ベシケアとミラベトリックを合わせたOAB治療剤のほか、心機能検査補助剤レキスキャン等の売上が為替の影響により減少しましたが、米ドルベースでの売上はそれぞれ拡大しました。
- ・ プログラフの売上は減少しました。
- ・ アゾール系抗真菌剤クレセンバが売上に貢献しました。

◇ EMEA*

EMEAの売上高は1,661億円(同2.3%増)となりました。なお、ユーロベースでの売上高は1,406百万ユーロ(同17.0%増)となりました。

- ・ XTANDIの売上が拡大しました。
- ・ ベシケアとベットミガを合わせたOAB治療剤、プログラフの売上は為替の影響等により減少しました。なお、プログラフのユーロベースでの売上は拡大しました。

*EMEA: 欧州・中東・アフリカ

◇ アジア・オセアニア

アジア・オセアニアの売上高は418億円(同7.6%減)となりました。

- ・ XTANDI、ベシケアとベットミガを合わせたOAB治療剤の売上は増加しました。
- ・ プログラフ、前立腺肥大症の排尿障害改善剤ハルナールの売上は為替の影響等もあり減少しました。

【コア営業利益／コア四半期純利益】

- ・ 売上高の減少に伴い、売上総利益は5,055億円(同2.6%減)となりました。なお、売上原価率は製品構成の変化に加え、グループ間取引における未実現利益消去に伴う為替の影響等により、前年同期に比べ2.1ポイント低下し、22.4%となりました。
- ・ 販売費及び一般管理費、研究開発費は為替の影響等により、それぞれ2,208億円(同7.9%減)、997億円(同11.0%減)となりました。なお、対売上高研究開発費比率は、前年同期に比べ1.0ポイント低下し、15.3%となりました。
- ・ 無形資産償却費は、177億円(同19.2%減)となりました。

以上の結果、コア営業利益は1,665億円(同14.7%増)となりました。

また、コア四半期純利益は1,206億円(同16.0%増)、基本的1株当たりコア四半期純利益は56.75円(同18.8%増)となりました。

本年4月にグローバル皮膚科事業を譲渡したことに伴い、譲渡された製品の売上、諸経費が計上されない一方で、受領した譲渡対価を一定期間にわたり収益として認識しています。この結果、当第2四半期累計期間において売上高、利益に一定程度のプラスの影響がありました。

<連結業績（フルベース）>

当第2四半期累計期間の連結業績（フルベース）は、以下の通り、売上高は減収、営業利益、税引前四半期利益、四半期純利益は増益となりました。

フルベースの業績には、コアベースの業績で除外される「その他の費用」（減損損失、有形固定資産売却損、リストラクチャリング費用等）、売却可能金融資産の売却益（「金融収益」に計上）等が含まれています。

当第2四半期累計期間における、「その他の費用」は98億円（前年同期：134億円）、売却可能金融資産の売却益は16億円（前年同期：121億円）でした。

[連結業績（フルベース）]

（単位：百万円）

	前第2四半期累計 (2016年3月期)	当第2四半期累計 (2017年3月期)	対前年同期増減額 (増減率)
売上高	687,501	651,673	△35,828 (△5.2%)
営業利益	132,637	157,057	24,420 (18.4%)
税引前四半期利益	145,418	157,772	12,354 (8.5%)
四半期純利益	102,933	115,064	12,131 (11.8%)
基本的1株当たり 四半期純利益(円)	47.30	54.16	6.86 (14.5%)
四半期包括利益	104,868	2,662	△102,206 (△97.5%)

② その他

当社は、2015年5月に公表した3か年の「経営計画2015-2017」において、「製品価値の最大化」「イノベーションの創出」「Operational Excellenceの追求」の3つを戦略課題として掲げ、中長期にわたる持続的な成長に向けた取り組みを進めています。

◇「製品価値の最大化」の取り組み

XTANDI/イクスタンジを中心とするがん領域フランチャイズ並びにベシケアとベタニス/ミラベトリック/ベットミガを合わせたOABフランチャイズの最大化を図っています。各国で発売を進めており、XTANDI/イクスタンジの発売国は約60か国、ベタニス/ミラベトリック/ベットミガの発売国は約50か国となりました(2016年9月現在)。

XTANDIに関しては、ピカルタミドとの直接比較試験であるTERRAIN試験データの添付文書への追加について、2016年4月に欧州で承認を取得し、添付文書を改訂しました。また、米国においても2016年10月に承認を取得し、添付文書を改訂しました。

PCSK9阻害剤レパーサを、「家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症」*の適応症で、日本において2016年4月に発売しました。

*適応症：「家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症、ただし、心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA還元酵素阻害剤で効果不十分な場合に限る。」

*保険診療における本剤の使用については、厚生労働省保険局医療課長通知(保医発0419第1号、平成28年4月19日)により、留意事項が付されています。

◇「イノベーションの創出」の取り組み

持続的な成長の源泉である「イノベーションの創出」では、新薬創出力の一層の強化とともに、新たな機会へも積極的に挑戦しています。

これまで注力してきた領域に加え、新たな疾患領域である「筋疾患」「眼科」や、次世代型ワクチンや細胞医療等の新技術・新治療手段に対しても、外部パートナーとの提携機会も活用しながら、イノベーション創出のための投資を行っています。当第2四半期累計期間における外部との提携等の取り組みは以下の通りです。

- ・ 2016年4月、国立研究開発法人産業技術総合研究所と、顧みられない熱帯病の抗寄生原虫創薬(シャーガス病)に関する共同研究契約を締結しました。
- ・ 2016年5月、第一三共株式会社及び武田薬品工業株式会社と、革新的医薬品の創出を効率化・加速化することを目的として、健康成人におけるバイオマーカーの基礎データを網羅的に取得・解析する共同研究契約を公表しました。
- ・ 2016年6月、東京大学 医科学研究所と、コレラ、毒素原性大腸菌を対象とした経口コメ型ワクチンに関する共同研究契約を締結しました。

- ・ 2016年7月、Cytokinetics, Inc. (米国) との骨格筋活性化剤に関する提携契約を改定し、提携範囲を拡大しました。本契約改定により、提携範囲に筋萎縮性側索硬化症 (ALS) を加え、今後、ALS も対象に速筋トロポニン活性化剤 **CK-2127107** の開発を行います。また、Cytokinetic, Inc.の開発する骨格筋活性化剤 **tirasemtiv** の開発及び商業化に関するオプション権を取得しました。更に、次世代骨格筋活性化剤の創出を目的とした共同研究提携を2017年まで延長しました。
- ・ 2016年7月、MPM Capital, Inc. (米国) と共同で、デジタルヘルス領域における投資会社 **DigiTx Partners LLC** (米国) を設立しました。**DigiTx Partners LLC** は、デジタルヘルス領域において、患者さんの健康や治療を改善するソリューションを創出し、特に、製薬ビジネスに相乗効果をもたらすような企業に投資していきます。また、既に成長段階にある企業にも投資を検討していく予定です。

臨床開発においては、より優先度の高いプロジェクトに経営資源を集中することにより、開発のスピードアップを図っています。当第2四半期累計期間における主な開発の進展は以下の通りです。

- ・ **クエチアピソフマル酸塩** (一般名) の徐放錠 (開発コード: **FK949E**) に関し、日本において2016年8月に、双極性障害におけるうつ症状の改善の効能・効果で承認申請をしました。
- ・ **高リン血症治療剤キックリン** (一般名: **ビキサロマー**、開発コード: **ASP1585**) の顆粒製剤に関し、日本において2016年9月に承認を取得しました。
- ・ **イクスタンジ** (一般名: **エンザルタミド**) の錠剤に関し、日本において2016年9月に承認申請をしました。

◇ 「Operational Excellence の追求」の取り組み

環境変化にシなやかに対応できる組織・仕組みを構築し、オペレーションの一層の高質化・効率化を図るため、様々な視点から変化を先取りした取り組みを継続しています。当第2四半期累計期間における主な取り組みは以下の通りです。

- ・ 2016年4月、当社のグローバル皮膚科事業を、**LEO Pharma A/S** (デンマーク) に譲渡しました。現在、製品供給を継続しながら、両社は協力して事業の移管を進めています。
- ・ 2016年4月、東南アジア・南アジア地域における一層の事業の高質化・効率化を目指し、マレーシアに設立した販売子会社 **Astellas Pharma Malaysia Sdn. Bhd.** が事業を開始しました。また、2016年4月、同地域における統括組織(「**SESA (South East & South Asia)** 統括組織」) を設立し、同月より事業を開始しました。

- ・ 2016年8月、当社医薬品の製剤・包装を行うノーマン工場(米国)を保有する当社生産子会社であるアステラス ファーマ テクノロジーズ Inc.(米国)の全株式を Avara Norman Pharmaceutical Services, Inc.(米国)へ譲渡しました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、資本及び負債の状況

当第2四半期末(2016年9月30日時点)の連結財政状態計算書の概要及び前期末からの主な変動は以下の通りです。

【資産】

総資産は1兆7,132億円(前期末比862億円減)となりました。

<非流動資産> 8,385億円(同633億円減)

- ・ その他の無形資産は3,178億円(同179億円減)となりました。

<流動資産> 8,747億円(同228億円減)

- ・ 現金及び現金同等物は3,663億円(同63億円増)となりました。

【資本】

資本合計は、1兆2,273億円(同320億円減)となり、親会社所有者帰属持分比率は71.6%となりました。

- ・ 四半期純利益1,151億円を計上した一方で、剰余金の配当340億円を実施しました。
- ・ 2016年6月20日に自己株式の消却1,102億円(6,800万株)を実施しました。
- ・ なお、在外営業活動体の換算差額が資本の減少方向に1,072億円変動しました。

【負債】

負債の合計は、4,859億円(同542億円減)となりました。

<非流動負債> 1,024億円(同244億円減)

<流動負債> 3,835億円(同298億円減)

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間のキャッシュ・フローの概要及び主な項目の前年同期比較は以下の通りです。

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

営業活動によるキャッシュ・フローは、901億円（前年同期比49億円減）となりました。

- ・ 法人所得税の支払額が364億円となりました。

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

投資活動によるキャッシュ・フローは、△199億円（同131億円支出増）となりました。

- ・ 有形固定資産の取得による支出161億円、無形資産の取得による支出50億円の一方で、売却可能金融資産の売却による収入21億円等がありました。

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

財務活動によるキャッシュ・フローは、△355億円（同647億円支出減）となりました。

- ・ 配当金の支払額は340億円となりました。

以上の結果、当第2四半期末における現金及び現金同等物の残高は、3,663億円（前期末比63億円増）となりました。

(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

[通期連結業績予想(コアベース^注)]

(単位:百万円)

	2016年3月期 通期実績	2017年3月期 通期予想	増減額 (増減率)
売上高	1,372,706	1,300,000	△72,706 (△5.3%)
コア営業利益	267,456	274,000	6,544 (2.4%)
コア当期純利益	198,802	202,000	3,198 (1.6%)
基本的1株当たり コア当期純利益(円)	92.12	95.07	2.96 (3.2%)

(注) コアベースの業績の定義につきましては、本添付資料の2ページに記載しています。

[通期の想定為替レート]

2017年3月期 : 103円/米ドル、117円/ユーロ

(第3四半期以降の想定為替レート: 100円/米ドル、115円/ユーロ)

2016年3月期(実績): 120円/米ドル、133円/ユーロ

通期連結業績予想(コアベース)は上表の通りです。

当第2四半期累計期間までの状況と為替の動向を踏まえ、2016年5月に公表しました業績予想(以下、期初予想)から売上高を下方修正、コア営業利益並びにコア当期純利益を上方修正しています。なお、想定為替レートを変更したことにより、期初想定の為替レートを適用した場合と比べ、売上高、コア営業利益において、それぞれ568億円、100億円の減少となる見込みです。

また、本年4月に実施したグローバル皮膚科事業の譲渡に伴う譲渡対価の収益認識額が期初予想を上回る見通しであるため、売上高、コア営業利益にプラスの影響を見込んでいます。

これらの為替の影響や、グローバル皮膚科事業の譲渡に伴う影響を除いた実質的なビジネスは期初想定範囲で推移する見通しです。

売上高は1兆3,000億円(期初予想から500億円の下方修正)を予想しています。XTANDI/イクスタンジ、ベシケアとベタニス/ミラベトリック/ベットミガを合わせたOAB治療剤等の売上高が為替の影響等もあり期初予想を下回る見通しです。

販売費及び一般管理費、研究開発費は為替の影響等により期初予想を下回る見通しです。なお、研究開発費は2,160億円(期初予想から150億円の下方修正)を予想しています。

以上の結果、当期のコア営業利益、コア当期純利益は、それぞれ2,740億円(期初予想から40億円の上方修正)、2,020億円(期初予想から30億円の上方修正)を予想しています。

[通期連結業績予想(フルベース)]

(単位:百万円)

	2016年3月期 通期実績	2017年3月期 通期予想	増減額 (増減率)
売上高	1,372,706	1,300,000	△72,706 (△5.3%)
営業利益	248,986	267,000	18,014 (7.2%)
税引前利益	261,770	268,000	6,230 (2.4%)
当期純利益	193,687	198,000	4,313 (2.2%)
基本的1株当たり 当期純利益(円)	89.75	93.19	3.44 (3.8%)

通期連結業績予想(フルベース)は上表の通りです。

2016年5月に公表いたしました期初予想から売上高を下方修正、営業利益、税引前利益は据え置き、当期純利益を上方修正しています。

売上高は1兆3,000億円(期初予想から500億円の下方修正)を予想しています。

コア営業利益は期初予想を上回る見込みですが、コアベースの業績で除外される、有形固定資産の減損損失、為替差損等の「その他の費用」が期初想定を上回る見込みであることから、営業利益は期初予想を据え置いています。

また、当期純利益は、1,980億円(期初予想から10億円の上方修正)を予想しています。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

なお、当第2四半期連結累計期間の法人所得税は、見積年次実効税率を基に算定しています。

3. 要約四半期連結財務諸表

(1) 要約四半期連結純損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)
売上高	687,501	651,673
売上原価	168,394	146,206
売上総利益	519,106	505,467
販売費及び一般管理費	239,741	220,842
研究開発費	112,041	99,671
無形資産償却費	21,903	17,707
持分法による損益	252	792
その他の収益	888	376
その他の費用	13,421	9,774
営業利益	132,637	157,057
金融収益	13,350	2,392
金融費用	569	1,677
税引前四半期利益	145,418	157,772
法人所得税	42,485	42,708
四半期純利益	102,933	115,064
四半期純利益の帰属		
親会社の所有者	102,933	115,064
1株当たり四半期純利益		
基本的1株当たり四半期純利益(円)	47.30	54.16
希薄化後1株当たり四半期純利益(円)	47.23	54.08

(2) 要約四半期連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)
四半期純利益	102,933	115,064
その他の包括利益		
純損益に振替えられることのない項目		
確定給付制度に係る再測定	1,936	2,536
小計	1,936	2,536
純損益にその後に振替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	9,816	107,226
売却可能金融資産の公正価値の変動	9,816	2,640
小計	0	109,865
税引後その他の包括利益合計	1,935	112,402
四半期包括利益合計	104,868	2,662
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	104,868	2,662

(3) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2016年9月30日)
資産		
非流動資産		
有形固定資産	200,955	182,726
のれん	152,920	137,232
その他の無形資産	335,698	317,754
売上債権及びその他の債権	24,103	28,011
持分法で会計処理されている投資	2,435	2,538
繰延税金資産	81,497	74,197
その他の金融資産	89,424	82,803
その他の非流動資産	14,769	13,227
非流動資産合計	901,801	838,488
流動資産		
棚卸資産	161,691	157,445
売上債権及びその他の債権	327,599	316,187
未収法人所得税	16,403	5,908
その他の金融資産	14,394	11,982
その他の流動資産	17,221	16,847
現金及び現金同等物	360,030	366,325
小計	897,337	874,694
売却目的で保有する資産	200	-
流動資産合計	897,537	874,694
資産合計	1,799,338	1,713,181

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2016年9月30日)
資本及び負債		
資本		
資本金	103,001	103,001
資本剰余金	176,903	176,972
自己株式	157,111	47,342
利益剰余金	973,054	941,226
その他の資本の構成要素	163,363	53,396
親会社の所有者に帰属する持分合計	1,259,209	1,227,253
資本合計	1,259,209	1,227,253
負債		
非流動負債		
仕入債務及びその他の債務	1,599	869
退職給付に係る負債	39,797	40,838
引当金	7,083	4,895
その他の金融負債	722	815
その他の非流動負債	77,569	54,984
非流動負債合計	126,769	102,401
流動負債		
仕入債務及びその他の債務	181,559	154,127
未払法人所得税	19,312	9,678
引当金	89,858	88,263
その他の金融負債	1,505	34,560
その他の流動負債	121,126	96,900
流動負債合計	413,359	383,527
負債合計	540,129	485,929
資本及び負債合計	1,799,338	1,713,181

(4) 要約四半期連結持分変動計算書

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					新株予約権	在外営業活動体の換算差額
2015年4月1日残高	103,001	176,822	86,997	905,083	2,241	177,306
四半期包括利益						
四半期純利益	-	-	-	102,933	-	-
その他の包括利益	-	-	-	-	-	9,816
四半期包括利益合計	-	-	-	102,933	-	9,816
資本で直接認識された所有者との取引						
自己株式の取得	-	-	64,688	-	-	-
自己株式の処分	-	-	147	71	76	-
自己株式の消却	-	-	49,577	49,577	-	-
配当金	-	-	-	35,090	-	-
株式報酬取引	-	12	-	-	73	-
振替	-	-	-	1,936	-	-
資本で直接認識された所有者との取引合計	-	12	14,963	82,803	4	-
2015年9月30日残高	103,001	176,834	101,960	925,214	2,237	187,122

2016年4月1日残高	103,001	176,903	157,111	973,054	2,126	132,134
四半期包括利益						
四半期純利益	-	-	-	115,064	-	-
その他の包括利益	-	-	-	-	-	107,226
四半期包括利益合計	-	-	-	115,064	-	107,226
資本で直接認識された所有者との取引						
自己株式の取得	-	-	767	-	-	-
自己株式の処分	-	78	317	137	101	-
自己株式の消却	-	-	110,219	110,219	-	-
配当金	-	-	-	34,000	-	-
株式報酬取引	-	147	-	-	-	-
振替	-	-	-	2,536	-	-
資本で直接認識された所有者との取引合計	-	69	109,768	146,892	101	-
2016年9月30日残高	103,001	176,972	47,342	941,226	2,025	24,908

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分				資本合計
	その他の資本の構成要素			合計	
	売却可能金融 資産の公正価 値の変動	確定給付制度 に係る再測定	合計		
2015年4月1日残高	40,461	-	220,007	1,317,916	1,317,916
四半期包括利益					
四半期純利益	-	-	-	102,933	102,933
その他の包括利益	9,816	1,936	1,935	1,935	1,935
四半期包括利益合計	9,816	1,936	1,935	104,868	104,868
資本で直接認識された所有者 との取引					
自己株式の取得	-	-	-	64,688	64,688
自己株式の処分	-	-	76	0	0
自己株式の消却	-	-	-	-	-
配当金	-	-	-	35,090	35,090
株式報酬取引	-	-	73	84	84
振替	-	1,936	1,936	-	-
資本で直接認識された所有者 との取引合計	-	1,936	1,940	99,694	99,694
2015年9月30日残高	30,644	-	220,003	1,323,091	1,323,091

2016年4月1日残高	29,103	-	163,363	1,259,209	1,259,209
四半期包括利益					
四半期純利益	-	-	-	115,064	115,064
その他の包括利益	2,640	2,536	112,402	112,402	112,402
四半期包括利益合計	2,640	2,536	112,402	2,662	2,662
資本で直接認識された所有者 との取引					
自己株式の取得	-	-	-	767	767
自己株式の処分	-	-	101	0	0
自己株式の消却	-	-	-	-	-
配当金	-	-	-	34,000	34,000
株式報酬取引	-	-	-	147	147
振替	-	2,536	2,536	-	-
資本で直接認識された所有者 との取引合計	-	2,536	2,435	34,619	34,619
2016年9月30日残高	26,463	-	53,396	1,227,253	1,227,253

(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	145,418	157,772
減価償却費及び無形資産償却費	35,082	31,491
減損損失及びその戻入益	6,357	7,615
金融収益及び金融費用	12,781	716
棚卸資産の増減額	832	12,429
売上債権及びその他の債権の増減額	22,291	19,502
仕入債務及びその他の債務の増減額	36,099	7,182
その他の調整	23,440	30,540
営業活動から生じたキャッシュ・フロー	138,294	126,509
法人所得税の支払額	43,282	36,435
営業活動によるキャッシュ・フロー	95,012	90,075
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	14,627	16,144
有形固定資産の売却による収入	1,535	569
無形資産の取得による支出	7,625	5,020
売却可能金融資産の取得による支出	434	239
売却可能金融資産の売却による収入	16,390	2,064
利息及び配当金の受取額	1,265	796
その他	3,268	1,923
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,764	19,897
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	64,688	767
親会社の所有者への配当金の支払額	35,090	34,000
その他	468	779
財務活動によるキャッシュ・フロー	100,246	35,545
為替レート変動による影響	3,704	28,337
現金及び現金同等物の純増減額	8,294	6,296
現金及び現金同等物の期首残高	396,430	360,030
現金及び現金同等物の四半期末残高	388,136	366,325

(6) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(企業結合)

当第2四半期連結累計期間(自2016年4月1日至2016年9月30日)

現金を対価とする株式公開買付により、オカタセラピューティクス Inc.(2016年5月に社名をアステラス インスティテュート フォー リジェネレイティブ メディシンに変更)は2016年2月10日に当社の連結子会社となっています。

第1四半期連結会計期間において、当該企業結合における取得日現在の取得資産及び引受負債の公正価値の測定に関して、新たな事実が判明し追加的な分析を行ったため、下記のとおり、一部の取得資産及び引受負債の暫定的な公正価値を修正しています。

(単位:百万円)

	当初の暫定的な 公正価値	その後の修正	修正後の公正価値
有形固定資産	151	-	151
その他の無形資産	17,456	3,736	13,720
繰延税金資産	3,167	1,327	4,494
現金及び現金同等物	1,084	-	1,084
その他の資産	41	-	41
その他の負債	2,494	-	2,494
取得資産及び引受負債の公正価値 (純額)	19,405	2,409	16,996
のれん	24,332	2,409	26,741
合計	43,737	-	43,737
支払対価の公正価値	43,737	-	43,737

また、この暫定的な公正価値の修正に伴い、前連結会計年度の要約四半期連結財政状態計算書を遡及修正しています。その結果、前連結会計年度ののれん、繰延税金資産がそれぞれ2,260百万円、1,245百万円増加し、その他の無形資産が3,504百万円減少しています。

なお、当該公正価値の測定は継続中であるため、企業結合当初の会計処理は完了していません。